

検証・課題分析等の全体概要

【目的】設計者及び施工関係者との合意形成早期化、施工プロセスでのBIM活用に向けたモデルデータ共有

【手法】設計業務が完了している建物のBIMモデルを作成するとともに、関連各所との共通データ環境を試行的に構築することで、合意形成の早期化と施工関係者でのBIM活用を促す。

検証の体制

庄内BIM研究会

技術運営委員会

ブレンスタッフ株式会社・・・設計事務所
株式会社佐藤工務・・・・・・総合建設業
鶴岡建設株式会社・・・・・・総合建設業
林建設工業株式会社・・・・・・総合建設業
株式会社丸高・・・・・・総合建設業

分析する課題と課題解決の対応策

課題A：S4モデルデータに付加すべき情報・オブジェクトを把握
課題B：S4モデルデータに上記の情報・オブジェクトを付加する役割を担うプロセスの明確化

応募者の概要

代表応募者：ブレンスタッフ株式会社
共同応募者：株式会社佐藤工務／鶴岡建設株式会社／林建設工業株式会社／株式会社丸高

事業期間：令和3年度
グループの関係性：庄内BIM研究会に属する建築設計事務所(意匠・構造)と総合建設業によるグループ

BIMの活用効果と改善方策

検証A) 検証B)

具体的なBIMモデルデータの活用方法を体験することで、“BIMに対する期待度”がどのくらい変化するのかを検証する。(モデル事業実施前と実施後に総合建設業の会社にアンケートを実施し、変化量を可視化できるか検証)

BIMに対する期待度が上がれば、BIMに対する敷居は心理的に下がると予想される。今回のモデル事業で得られた成果は、本事業の報告会等を通じて、地方でのBIM導入検討されている企業へ共有していきたい。

プロジェクト概要

プロジェクト区分：新築
検証区分：既実施
用途：事務所
階数：地上2階
延床面積：約2,300㎡
構造種別：鉄骨造

令和3年度 BIMを活用した建築生産・維持管理
プロセス円滑化モデル事業(中小事業者BIM試行型)

どうしたら地方によるBIM活用が進むのか

地方ゼネコンがBIMを活用することが、地方の建設プロセスにとって影響が大きい

地方ゼネコンにどうやってBIMモデルデータを使ってもらおうか



BIMへの敷居が高いと感じている地方ゼネコンに対して、具体的かつ身近な活用方法を提示し、地方ゼネコンがBIMのワークフローにアプローチする際の手法の1つを提言することで、地方におけるBIM活用促進に繋げていく。

1

設計BIMモデル
(S4段階)
を作成

2

共通データ環境
(CDE) を構築
および設定

3

共通データ環境
(CDE) を利用し、
BIMモデルデータを
確認、施工者の実
務に沿ったBIMモデ
ル活用の意見を集
約整理

4

設計BIMモデル
に付加すべき情
報・オブジェクト
をモデルに追加

5

「集約整理した活
用方法」を試行

6

「モデルに追加」
するべき役割の担
い手を検討